

あるが、面積三百七十万方マイル、人口九百万、濠州、南阿を抜いて第一位を占めている。国富の如き四百四十億円を数へ、それは一人あて五千円に当り、産業貿易また日進月歩の盛運に立っている。

かういふ「雄邦」が大正八年母国から国際連盟における独立代表権を許され、大正十一年イギリス大使ゲアスおよびカナダ首相キングの協定で駐米カナダ公使派遣を定め、昭和元年米国との間に、昭和三年フランスとの間に、公使を交換したとしても、何の不思議とすることがあらうぞ。しかして今回の日加外交使節交換に至っては、吾人はその早からず、寧ろ遅かりしことを指摘せねばならぬのである。

何故か、見よ、日加貿易は近年六千万円乃至八千万円に達し、その間我輸入は輸出に二倍し、我こそカナダの顧客の如くではあるが、その進境大なるを見ると、たれかこの太平洋をさしはさむ両友邦経済接近の前途を祝福せぬものがあらう。

次にカナダ在留邦人一万五千を数へ、その待遇と新入国問題とは明治四十年ルミユ協約以来、我が大切な外交の一となつてゐる。これ等貿易および移民の両問題を適当に円滑に処分することは、あに新外交機関の重要な任務ではあるまいか。

吾人はオッタワの我公使館と東京のカナダ公使館とによりて、日加関係の親善的發展を見んことを切望してやまない。

(朝日新聞社説、五月二十一日)

## 六月

●サスカチュワン州で、初めて自由党が敗北。

## 七月

### 公使館でカナダ国旗を掲揚 アジアでは初めて

●永井邸(麻布)にもうけられた臨時カナダ公使館の上に、昨日午後、アジアでは初めてカナダの国旗が掲揚された。

(中略)

カナダの在外公使館は、ワシントン、パリ、東京と、三つしかない。それだけに在日カナダ人や日本の政府関係者にとつて、昨日の行事は意義深いものがあつたようだ。式典とレセプションは、公使館の芝生の上で、簡素に、そしてうちけた雰囲気の中で進められた。主催は、在日カナダ協会と代理公使のヒュー・L・キンリーサイド氏である。

キンリーサイド氏は、国旗掲揚に先立つて、簡単なあいさつを行った。同氏は、その中で、次のようにカナダ最初の代表に寄せられた歓迎に対する感謝と、公使館設立に当つての希望を述べた。

「日加協会の主催により、自治領カナダの建国六十二周年を祝い、かつ極東におけるカナダ最初の公使館の仮施設の上にながの国旗が掲揚されるのに立ち合うため、私たちは今日、ここに集まつた。この機会を借りて、私は皆さんと一緒に日本の政府および国民がこの美しい国に駐在するカナダ最初の外交代表団に対して示した好意ある歓迎に、心から感謝の意を表す。

駐日カナダ公使館に掲揚された旗が、二つの大きく、かつ有意義な目的に応えてくれるだろうというのが、私の心から

私が二、三年の間、東京へ赴任することになった、と今日スケルトン博士からきかされた。突然で、予期していなかったことである。ヨーロッパへ行きたいと考えていたので、いささか失望した。新しい任務につくまでに一か月しかない。

日本の歴史、政治等を勉強するには十分だ。(一九二九年七月五日)

私が選ばれたのは、クラウザーが都合が悪くて行けないし、ほかに適当な人がいないなど、いろいろな理由によるものだ。(七月八日)

## 一 外交官の日記から

### 二等書記官 ケネス・P・カーフウッド

昨日、マラー氏に会つた。二時間にわたる会話ののち、彼は私と握手し、八月末にバンクーバーか船上で会おうと約束してくれた。それからマラー氏の勧めで、私はモントリオールの仕立屋デイビッド・リーズへでかけ、外交官服の寸法をとってもらつた。

服は英国で仕立てられて、私のところへ送られてくることになっている。(七月十日)

カナダ公使が日本国王によって正式に認証される重要な行事が、今日催された。最初の英国代表が御門との謁見に際して

直面した奇妙な東洋の儀式について読んでいた公使は、かなりの戦りつというか、緊張した期待感につつまれていたが、その緊張と不安はようやく終わったのである。(九月十八日)

日本に到着して、二週間近くたつた。

(中略)公使は多くの困難なことがらをかかえて、いくらか気むすかしかったが、よく気持を抑えていた。マラー夫人はすばらしかった。兩人とも、公使と公使館を探すことについては失望していた。帝国ホテルの生活には気がめいっていたし、食事はひどかった。(中略)雨にもうんざりしていた。(中略)

九月二十日、帝国生命ビル内の仮公使館で執務を開始した。同じ日、公使夫妻は麻布の家に移つた。(九月二十一日)

在日カナダ協会主催の夕食会であいさつした公使は、大英帝国の一員としてのカナダと、彼が赴任している国との良好な関係を醸成するのが自分の主たる任務である、と強調した。カナダ公使が就任後数週間あるいは数か月以内にやらなければならぬ数多くの仕事のひとつは、東洋に独自の外交機関を設置するに当つてカナダがもつことになる正確な役割と立場を日本国民および在日英国人社会に説明し、必要があれば、独自の代表部設置が自治国の独立あるいは(大英)帝国の解散への傾向の前兆となる可能性について、在住英国人の疑惑を正すことである。公使は、国王陛下ジョージ五世やマッケンジー・キング・カナダ首相の発言を引用しつつ、カナダは英連邦に対して、完全にまた統一的に協力する意図であることとを何度も強調した。(九月二十六日、抄訳)